

勅授

三

丙
二〇四十八
七〇五

立案 昭和 年 月 日
決裁 昭和 年 月 日

爵位課長

宗秩寮總裁

宮内事務官

元技術院參技官細川政之助外七十二名
特旨敏位ノ件

昭和二十一年四月廿一日
臺帳記入
四月廿一日官報報告済
四月廿一日達

裏面白紙



元技術院參技官細川政之助外七十二名
特旨叙位ノ件
右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和二十年四月十六日

内閣總理大臣男爵鈴木貫太郎

内

閣

内閣位第六三號

起 昭和三十年四月 日 裁可昭和二十年四月六日 施行 昭和 年 月 日

内閣總理大臣

内閣書記官長

内閣書記官

元技術院參技官細川政之助外七十二名
特旨叙位一件

辭令案

例文

内閣

裏面白紙

裏面白紙

内閣

從四位 細川政之助

特旨ヲ以テ位一級被進

從四位 細川政之助

從四位

技
術
院

正
四
位

依
願
免
本
官

昭
和
一
十
年
四
月
十
日

來
在
職
滿
十
年
以
上

昭
和
四
年
九
月
十
三
日

元
技
術
院
參
技
官
從
四
位

細
川

政
之
助

裏
面
白
紙

叙從三位	同	同	同	同	同
<small>昭和三十二年四月二日 昭和三十二年七月一日 昭和三十二年九月八日 昭和三十二年十月以上</small>	<small>昭和三十二年七月一日 昭和三十二年九月八日 昭和三十二年十月以上</small>	<small>昭和三十二年十月以上</small>	<small>昭和三十二年十月以上</small>	<small>昭和三十二年十月以上</small>	<small>昭和三十二年十月以上</small>
理事	理事	同	同	同	同
陸軍法務中將正四位大山文雄	同	陸軍中將從四位坂口靜夫	同	陸軍少將正五位川谷和郎	陸軍少將同 齋藤 順作

右文武官叙位進階内則第四條ニ依リ

謹テ奏ス

昭和二十二年四月十三日

陸軍

陸軍大臣阿南惟幾

内閣人録修纂のり二

叙従三位

昭和四年一月一日
召集解除

昭和四年三月五日
以上

陸軍中將

陸軍中將

四位

菅嶋

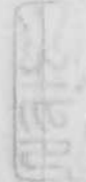
高

右文武官叙位進階内則第四條ニ依リ

謹テ奏ス

昭和二十年四月十二日

陸軍大臣 阿南 惟幾



陸軍

内閣人録行 六二七

叙位四位

二十二年三月廿日

二十二年十月廿五日

陸軍少將正五位

陸軍少將正五位

中村美明

右文武官叙位進階内則第四條ニ依リ

謹テ奏ス

二十二年四月九日

陸軍大臣河南惟幾



陸軍

めくれず

11

方四七

叙位

二十一年四月一日 陸軍少將正五位里見金二 召登解除 以來在位十二年以上

陸軍少將正五位里見金二

右文武官叙位進階内則第四條ニ依リ

謹テ奏ス

二十一年四月十三日

陸軍大臣阿南惟幾



陸軍

海軍大臣 米内光政

彼從三位 昭和三年三月二十日 任海軍少尉 以來海軍中將 正四位 牧田覺三郎

同 同 同 同 同 河瀬四郎

同 同 同 同 同 井上保雄

同 同 同 同 同 尾畑義純

同 同 同 同 同 時任茂樹

同 同 同 同 同 正五位

同 同 同 同 同 海軍少將

同 同 同 同 同 階内則

同 同 同 同 同 第四條ニ依リ

同 同 同 同 同 右文武官

同 同 同 同 同 階内則

同 同 同 同 同 第四條ニ依リ

同 同 同 同 同 階内則

同 同 同 同 同 第四條ニ依リ

同 同 同 同 同 階内則

同 同 同 同 同 第四條ニ依リ

同 同 同 同 同 階内則

同 同 同 同 同 第四條ニ依リ

同 同 同 同 同 階内則

同 同 同 同 同 第四條ニ依リ

同 同 同 同 同 階内則

同 同 同 同 同 第四條ニ依リ

同 同 同 同 同 階内則

同 同 同 同 同 第四條ニ依リ

同 同 同 同 同 階内則

同 同 同 同 同 第四條ニ依リ

同 同 同 同 同 階内則

同 同 同 同 同 第四條ニ依リ

同 同 同 同 同 階内則

昭和二十年四月十一日

海軍大臣 米内光政



海軍

裏面白紙

内閣府 四二號

文部省

敍從三位	同	同	同	同	同
昭和廿年三月廿一日	昭和廿年四月一日	昭和廿年八月廿一日	昭和廿年九月廿三日	昭和廿年五月一日	昭和廿年七月廿五日
至六年七月廿五日任京大助教授以來在職滿十年以上	至六年七月廿五日任京大助教授以來在職滿十年以上	至六年七月廿五日任京大助教授以來在職滿十年以上	至六年七月廿五日任京大助教授以來在職滿十年以上	至六年七月廿五日任京大助教授以來在職滿十年以上	至六年七月廿五日任京大助教授以來在職滿十年以上
元大阪帝國大學教授	元東京高等師範學校教授	元東京高等師範學校教授	元東京高等師範學校教授	元東京高等師範學校教授	元大阪帝國大學教授
五四位 渡原道夫	同 片瀬 淡	同 門脇 願珠	同 渡邊 半次郎	同 日田 權一	同 渡原道夫

有文武官敍位進階規則第四條ニ依リ請テ奏ス

昭和廿年四月廿二日

文部大臣

太田

耕造



裏面白紙

内閣人... 四三三

文部省

叙正四位	叙從三位	叙從三位
同	同	同
任和歌山高等師範學校教授以來在職十年以上	東京新科大學教授以來在職十年以上	廣島高等師範學校教授以來在職十年以上
同	同	同
從四位新里	同川上	元東京産業大學漢科教授正四位
文八郎	多助	一

右文武官叙位進階日附... 四條二依り請テ奏ス

昭和元年四月二日

文部大臣 太田 耕 造



裏面白紙

内閣 四一五號

文部省

叙正四位	依 昭和九年三月廿一日	京女子高等師範學校教授 原 敏 造
叙正四位	昭和九年四月十四日	元東京女子高等師範學校教授 原 敏 造
叙正四位	昭和九年三月廿七日	元栃木師範學校教授 同 本 橋 博 治
叙正四位	昭和九年四月廿一日	元第三高等學校教授 同 江 原 真 伍
叙正四位	昭和九年六月四日	元東京高等學校教授 同 清 野 耕 治
叙正四位	昭和九年三月卅一日	元高知高等學校教授 同 澤 野 章 之 助

右文武官叙位進階目録 四 條二依リ請フ奏ス

昭和九年四月廿一日

文部大臣

太田 耕 造



裏面白紙

内閣人文部

文部省

從三位	從三位	從三位	從三位
同	同	同	同
昭和三十二年七月十六日	昭和三十二年八月三十日	昭和三十二年四月廿一日	昭和三十二年七月十六日
元岩手師範學校校長	元愛媛師範學校校長	元宮城師範學校校長	元岩手師範學校校長
高橋 勝一	佐伯 千尋	山本 昇	高橋 勝一

右文武官叙位進階同日 同日 依リ 請テ 奏ス

昭和 卅年 四月 廿二日

文部大臣

太田 耕 造



裏面白紙

文部省

叙正四位 <small>昭和十年三月三十日任 依願免官</small> <small>元佐賀師範學校校長 從四位白井敏輔</small>	叙正四位 <small>昭和十年三月九日任 視學官以來在職滿十年</small> <small>元廣島師範學校教授 同及川彌平</small>	叙從四位 <small>昭和十年三月三十一日任 師範學校校長以來在職滿十年以上</small> <small>元愛媛師範學校教授 正五位上地龜義</small>	右文武官叙位進階日期第一 四條ニ依リ請フ奏ス 昭和十年四月二日 文部大臣 太田 耕造
------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------



敘從三位	任宮崎高等農林學校教授以上	元呂崎農林專門學校教授高田芳三郎
敘從三位	任高崎商業學校教授以上	元橫濱經濟專門學校教授下田禮佐
敘從三位	任弘前高等學校教授以上	元第二高等學校教授同坂原瑛夫
敘從三位	任松江高等學校教授以上	元第三高等學校教授同佐藤廣治
敘從三位	任日本文學專門學校教授以上	元東京高等學校教授同澤村寅二郎
敘從三位	任高崎工業專門學校教授以上	元仙臺工業專門學校教授同佐伯孝平
敘從三位	任東京外國語學校教授以上	元東京外事專門學校教授同落合泰次郎

右文武官敘位進階規則第四條ニ依リ謂テ奏ス

昭和 卅 年 四 月 二 日

文 部 省

文 部 大 臣 太 田 耕 造



裏面白紙

四一〇

文部省

從四位	昭和十四年九月二十二日任 元横濱經濟專門學校教授正五位大竹	綠
從四位	昭和十一年五月十九日任 元帝國圖書館司書官同林	紫三

右文武官敘位進階日期並同作ニ依リ詔ヲ奏ス

昭和十一年四月廿五日

文部大臣 太田 耕造



裏面白紙

四(六)辨

文部省

叙正四位	昭和十一年三月廿一日 依願免官	在弘前高等學校教授以來	元弘前高等學校教授 菅原芳賀 武雄
叙正四位	同	在弘前高等學校教授以來	同 三浦圭三
叙從四位	同	在弘前高等學校教授以來	同 小宅忠愛

右文武官叙位進階規則第 四條ニ依リ請テ奏ス

昭和十一年四月二日

文部大臣 太田 耕 造



裏面白紙

内閣府 第四〇八号

文 部 省

叙正三位	昭和十一年三月十一日	任第六等學校教授	元浦和高等學校教授	正四位 小野澤	百八
叙正四位	同	任第十二等學校教授	從四位 桑原	親通	
叙從四位	同	任浦和高等學校教授	正五位 秦	慈玉	

右文武官叙位進階日期第四條ニ依リ請フ奏ス

昭和十一年四月二日

文 部 大 臣 太 田 耕 造



裏面白紙

文部省

叙從三位
依 昭和六年四月十七日任能
官 本高等工業學校教授
以來在職滿十年以上
元能本工業專門學校教授
田 貢

行文武官叙位進階規則第四條ニ依リ補テ與ス

昭和六年四月十一日

文部大臣 太田 耕 浩



叙正四位

昭和二十年三月三日
依願免本官

大正九年一月十五日臨時陸軍省調査局
事務官任官以來高等官任職十五年

元特命全權使從役

宇佐美珍彦

右文武官叙位進階内則第四條ニ依リ

謹テ奏ス

昭和二十年四月十五日

大東亞大臣 東郷茂徳



大東亞省

上奏書用紙

規格第4号(東東1209)

三三七

敍正四位 昭和三十二年三月十八日 大正十三年六月二十日兼任南洋元朝鮮總督府 從四位 大野 季 夫

依 願 免 官 廳事務官以來在職十年以上 慶尚南道知事 右文武官敍位進階 內則 第四條ニ依リ

謹 テ 奏 ス

昭和二十年 四月十一日

朝鮮總督 阿 部 信 行



朝鮮總督府

宣統(各四冊)

裏面白紙

履歴書 陸軍中將正四位 壹嶋高

年	月	日	要項	資格	在職年數	通算
明治	三月	一日	陸軍中將	勳任	三十三年九月二十日	三十二年九月二十日
明治	十月	一日	正四位	勳任	三十三年九月二十日	三十二年九月二十日
明治	十月	十五日	待命			
明治	十月	十八日	隊備役			
明治	十一月	一日	臨時召集就職	勳任	一年五月一日	一年五月一日
明治	四月	一日	召集解除			
合計					三十四年二月三十一日	

裏面白紙

履 歴

書 陸軍少將正五位里見金二

年 月 日	要 項	資 格	在 職 年 數	通 算
昭和五年十二月廿五日	陸軍歩兵少尉	奏任		
昭和七年八月一日	陸軍少佐大佐	奏任		
昭和七年八月一日	待 命			
同 年八月二日	豫 備 役			
同 年同月 同 日	臨時召集就職	奏任	廿八年一月十九日	廿九年一月十九日
昭和五年二月十三日	召集就職			
同 年九月十五日	陸軍大佐	奏任		
昭和七年九月十五日	臨時召集就職			
昭和七年二月十五日	正 五 位	奏任	三年六月十七日	三年六月十七日
昭和九年三月一日	陸軍少將	奏任		
昭和廿年四月一日	召集就職	合 計	三十一年八月六日	

六三

技人第二八四號

昭和二十年四月十一日

技術院總裁 八木 秀 次



内閣總理大臣 男爵 鈴木 貫太郎 殿

元技術院參技官細川政之助候特許局事務官任叙以來在職滿十年以上
ニ及ビ勲勞不~~功~~ニ付別紙ノ通特旨叙位方御取計相成度此段及上申候

技 術 院

20.4.11
付受

129

裏面白紙

めくれず

裏面白紙

陸位第六七三號

敘位ノ件 進達

昭和二十年四月十三日

陸軍大臣 阿南 樞 兼

内閣總理大臣 岡野 進 兼 鈴木 貫太郎 殿

陸軍大將 藤江 惠輔 外十三名 特旨叙位ノ件

右 進 達

昭和二十年四月三十日 期滿

官報不登載

陸軍

204.13

めくれず

裏面白紙

勲位第六七六號

敍位ノ件 進達

昭和二十年四月十三日

陸軍大臣 阿南 惟 幾

内閣總理大臣 岡 野 裕 木 貫 大 郎 殿

陸軍法務中將 大山 文 雄 外 六 名 特 旨 敍 位 件

右 進 達 ス

昭和二十年五月一日期滿

官報不登載

陸 軍

204.13
信文
131

めくれず

裏面白紙

陞位第六七〇號

敘位ノ件進達

昭和二十年四月十二日

陸軍大臣 阿南惟幾

内閣總理大臣 野村胡堂

陸軍中將 高 特旨敘位ノ件

右進達ス

昭和二十年四月三十日

追テ本人ハ豫備轉役後間モナク再就職シタル者ニ有之今回召集
解除ヲ機會ニ手續セルモノニ付申添フ

宮不登載

陸軍

2024.13
132

めくれず

裏面白紙

陸位第六四三

敘位ノ件進達

昭和二十年四月九日

陸軍大臣

阿南 陸

内閣總理大臣 野村 陸



陸軍少將 中村 美明 特旨敘位ノ件

右進達ス

昭和二十年四月三十日 陸

官報不登載

陸軍

20.4.6
133

めくれず

裏面白紙

陸位第六七五

敍位ノ件進達

昭和二十年四月十三日

陸軍大臣

阿南惟幾

内閣總理大臣男爵鈴木貫太郎殿

陸軍少將里見金二特旨敍位ノ件

右進達ス

昭和二十年四月十三日 期満

追テ右ハ別紙履歴ノ通り豫備役轉役後直ニ再就職セルモノニ有之
今回ノ召集解除ヲ機會ニ午續セルモノニ付申添フ

官報不登載

陸軍

20.4.13
印文

海秘八三九 辨

昭和二十年四月十一日

海軍大臣 米内光政



内閣總理大臣 男爵 鈴木貫太郎 殿

海軍中將牧田覺三郎外四名ハ多年軍職ニ在リテ克ク其ノ
任務ヲ盡シ功績顯著ノ者ニ候處三月二十日豫備役被仰付
候ニ付テハ特ニ位一級被進度別紙上奏書進達ス

海軍

(終)

官報
小登載

文 部 省

宮城番五郎外四名特旨敘位ノ件

右 上 奏 書 及 進 達 候 也

昭 和 卅 年 四 月 二 日

文 部 大 臣 太 田 耕 造

内閣總理大臣男爵 鈴木 貫太郎 殿



裏 面 白 紙

文 部 省

登原道夫外四名特旨叙位ノ件

右 上 奏 書 及 進 達 候 也

昭 和 十 年 四 月 二 日

文 部 大 臣 太 田 耕 造



内閣總理大臣男爵 鈴木 貫太郎 殿



裏 面 白 紙

文 部 省

牧一外二名特旨被位ノ件

右 上 奏 書 及 進 達 候 也

昭 和 卅 年 四 月 二 日

文 部 大 臣 太 田 耕 黄



内閣總理大臣男爵 鈴木 貫太郎 殿



裏 面 白 紙

文 部 省

菅原教造外四名特旨敘位ノ件

右 上 奏 書 及 進 達 候 也

昭和 卅 年 四 月 廿 日

文 部 大 臣

太 田

耕

造

内閣總理大臣男爵 鈴木 貫太郎 殿



裏 面 白 紙

文 部 省

高橋勝一外三名特旨叙位ノ件

右 上 奏 書 及 進 達 候 也

昭 和 十 年 一 月 二 日

文 部 大 臣

太 田

耕



内閣總理大臣男爵 鈴木 貫太郎 殿

20.4.11
付受

裏 面 白 紙

文 部 省

白井敏輔外二名特旨叙位ノ件

右 上 奏 書 及 進 達 候 也

昭和 卅 年 四 月 二 日

文 部 大 臣

太 田

耕 造

新 造

強



内閣總理大臣 男爵 鈴木 貫太郎 殿

204.11
付受

141

裏 面 白 紙

文 部 省

本田芳三郎外六名特旨被位ノ件

右 上 奏 書 及 進 達 候 也

昭和 卅 年 四 月 廿 日

文 部 大 臣

太 田

耕

造



内閣總理大臣 男爵 鈴木 貫太郎 殿

裏 面 白 紙

文 部 省

大竹線外一名特旨發位ノ件

右 上 奏 書 及 進 達 候 也

昭 和 〃 年 〇 月 〇 日

文 部 大 臣

太 田

耕

造



内閣總理大臣男爵 鈴木 貫太郎 殿

143
20.4.
付

裏 面 白 紙

文 部 省

芳賀武雄外二名特旨被位ノ件

右 上 奏 書 及 進 達 候 也

昭 和 卅 年 四 月 二 日

文 部 大 臣

太 田

耕

造



内閣總理大臣男爵 鈴木 賢太郎殿



裏 面 白 紙

文 部 省

小野澤百八外二名特旨被位ノ件

右 上 奏 書 及 進 達 候 也

昭 和 卅 年 四 月 二 日

文 部 大 臣 太 田 耕 造

内閣總理大臣男爵 鈴木 貫太郎 殿



145

裏 面 白 紙

文 部 省

鳥 田 貢 時 旨 叙 位 ノ 件

右 上 奏 書 及 進 達 候 也

昭 和 卅 年 四 月 五 日

文 部 大 臣

太 田

耕



内 閣 總 理 大 臣 男 爵 鈴 木 貫 太 郎 殿

裏 面 白 紙

2024.10

一八〇號

昭和二十年四月十五日

大東亞大臣 東郷茂徳



内閣總理大臣男爵鈴木貫太郎殿

一字佐美珍彦特旨叙位、件上奏書

右及進達候也

大東亞省



特旨敍位
四月二十七日期限

内務大臣 甲第一二九七號

別紙 大野季夫特旨敍位ノ件

上奏書進達ス

昭和二十年四月十七日

内務大臣 安倍 源



内閣總理大臣 勇 齋 鈴 本 實 太郎 殿

内務



148

裏面白紙

裏面白紙

丙 九八九

從四位 細川政之助

特旨ヲ以テ位一級被進

從四位 細川政之助

敍正四位

右之通本日 宣下相成候條此旨及傳達候位記竝

辭令ハ追テ可及回送候也

昭和三十年四月二十一日

宗秩寮總裁子爵 武者小路公共

技術院總裁 八木秀次 殿

宮内省

丙 發第九九〇 號

一 陸軍大將 從三位 藤江 憲輔 外 二十三 名

右 本日 特旨 ヲ 以テ 敍位 相成候 二 付此旨 及 傳達候位
記 竝 辭令 ハ 追テ 可及 回送候也

昭和三十年 田 月 二十一日

宗秩寮總裁子爵 武者小路 公共

陸軍大臣 阿南 惟幾 殿

陸任 第六七三號、日六七六號、日六七〇號、日六四三號、日六六五號。

裏面白紙



丙 發第九九一號

一海軍中將正四位牧田覺三郎 外四名

右本日特旨ヲ以テ敍位相成候ニ付此旨及傳達候位
記竝辭令ハ追テ可及回送候也

昭和二十年四月十八日

宗秩寮總裁子爵武者小路公共

海軍大臣 末内光政 殿

海軍大臣 末内光政 殿

裏面白紙

宮内省

皇

丙一發第九九三號

一 元東北帝國大學教授從三位宮城普五郎外四十名
右本日特旨ヲ以テ敍位相成候ニ付此旨及傳達候位
記竝辭令ハ追テ可及回送候也

昭和二十年 四月十八日

宗秩寮總裁子爵 武者小路公共

文部大臣 大田 耕 造 殿

無号 宮城五郎外四名、日笠原道天外四名、日牧一外三名、
日菅系教造外四名、日高橋勝一外三名、日白井敏輔外二名、
日木田芳三郎外六名、日大竹縁外一名、日寺智武雄外二名、
日山野澤百八外二名、日島田三良 以下、

官 内 省

裏面白紙

裏面白紙

丙 癸 九三三 號

特旨ヲ以テ位一級被進

從四位 宇佐美 珍彦

從四位 宇佐美 珍彦

敘正 四位

右之通本日 宣下相成候條此旨及傳達候位記並
辭令ハ追テ可及回送候也

昭和二十年 四月二十一日

宗秩寮總裁子爵 武者小路 公共

大東亞大臣 東郷 正徳 殿

宮内省

裏面白紙

九九四

特旨ヲ以テ位一級被進

從四位大野季夫

敘正四位

從四位大野季夫

右之通本日 宣下相成候條此旨及傳達候位記並
辭令ハ追テ可及回送候也

昭和二十年四月二十一日

宗秩寮總裁子爵 武者小路公共

内務大臣 安倍源基殿

宮内省

55

丙 發第一九七號

一 元技術院参技官正四位 細川政之助
右の者の位記と辭令とを送りますから本人に交付せられたい

昭和三年六月十九日

宗秩寮總裁侯爵 松平康昌

特許標準局秘書課 出中

昭和三年四月十日 技人オニハ四早一を以て
技術院總文より上奏の通りです

官 内 省

裏面白紙



丙 發 第 二 九 三 號

一九東北帝國大臣勲授正三位 官城音五郎外四十一左
右の者の位記と辭令とを送りますから本人に交付せら
れたい

昭和三年六月十九日

宗秩寮總裁侯爵 松平康昌

文部大臣 森 戸 辰 男 殿

昭和三年年度

裏面白紙

宮内省



丙 發 第 二 九 四 號

一 元 特 命 全 權 公 使 正 四 位 宇 佐 見 珍 彦 外 一 名
右 の 者 の 位 記 と 辭 令 と を 送 り ま す か ら 本 人 に 交 付 せ ら
れ たい

昭 和 三 十 三 年 六 月 十 九 日

宗 秩 寮 總 裁 候 爵 松 平 康 昌

外 務 大 臣 芦 田 均 殿

昭 和 三 十 三 年 四 月 十 五 日 官 人 才 三 八 号 以 下 大 東 亞
大 臣 以 下 及 同 年 同 月 十 日 内 務 大 臣 官 房
甲 才 二 九 七 号 以 下 内 務 大 臣 以 下 上 奏 の
も ぐ ぐ ぐ

官 内 省

裏 面 白 紙